第4回新しい農村政策のあり方に関する検討会

農村地域の活性化に向けて一个香川県拠点の取組み~

令和2年8月28日 中国四国農政局香川県拠点 地方参事官 森 寛敬

香川県拠点の取組み1

ひまわりオイルの販路拡大に向けて地域商社との結びつけを企画・調整

まんのう町の特産であるひまわりオイルの販売促進に向け、<u>地域商社からアドバイスを受ける機会を県拠点で企画・調整</u>。まんのう町ものづくりセンターでは、ひまわりオイルの販売先の拡大を検討。

取組概要•効果

○ きっかけ

まんのう町ものづくりセンターが製造・販売しているまんのう町産ひまわりから低温圧搾法で搾油した「まんのうひまわりオイル」は、平成30年度優良ふるさと食品中央コンクールで農林水産大臣賞及び平成30年度かがわ県産品コンクールで知事賞をW受賞するなど高い評価を受けていた。しかし、令和元年5月、県拠点が同センターとの意見交換を行った際、販路拡大が課題であるとの相談を受ける。

○ 地域商社とのマッチング

県拠点が地域商社に<u>「まんのうひまわりオイル」の販路拡大方法(特に、量的拡大の部分で食用以外の用途に利用可能か)を地域商社に相談</u>。6月に販路拡大に関して<u>同センターが地域商社から直接アドバイスを受けることができるよう企画・調整</u>を行う。

○ 取組の効果・今後の方向性

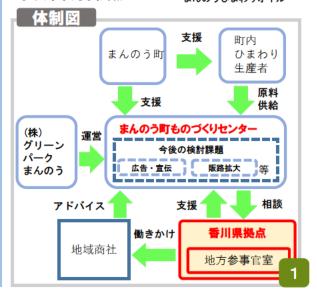
地域商社が「まんのうひまわりオイル」の品質特性を生かしつつ、食用以外の用途に利用することを同センターに提案し、<u>四国の他地域の特産品とコラボした商品を試作することとなった</u>。なお、商品の販路は地域商社が既に確保済みであり、同センターの販売金額の増加が期待されている。





まんのう町のひまわり畑

まんのうひまわりオイル



香川県拠点の取組み2

薬用作物の産地化に向け専門家等との結びつけを企画・調整

<u>薬用作物の先進地域(他県)の視察や専門家からアドバイスを受ける機会を県拠点で企画・調整</u>し後方支援。三豊市は、シンポジウムを開催するなど本格的に薬用作物の産地化を目指し検討開始。

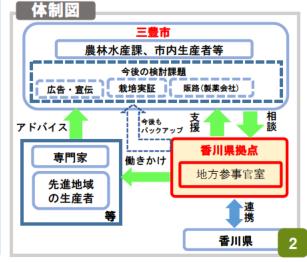
取組概要·効果

きっかけ

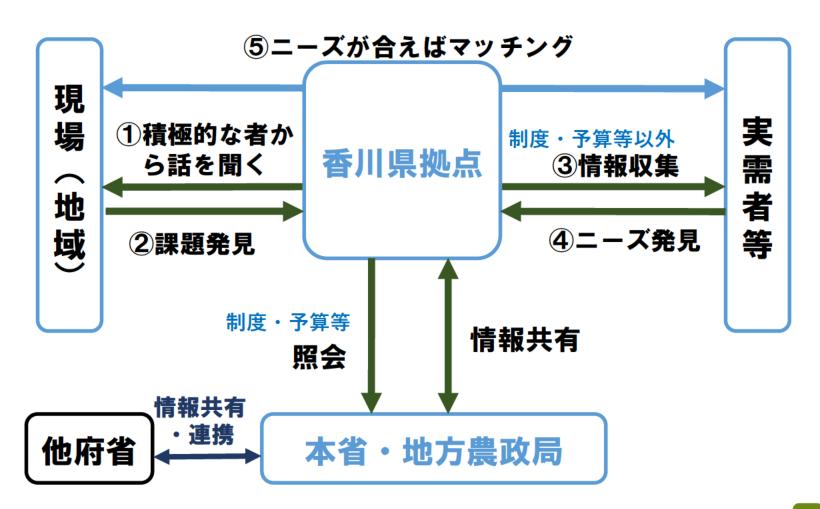
首長との意見交換(平成30年5月)の際、<u>薬用作物の産地化</u>を目指したいが、<u>ノウハウの不足により検討が進まない</u>との相談を受ける。

- **先進地域での現地視察と専門家とのマッチング** 近県の薬用作物先進地域の農業者や専門家にアプローチ し、現地視察とアドバイスを受ける機会を設定。三豊市 からは、引き続き県拠点に協力要請(30年11月)。また、 販売先を確保するため、県拠点がアレンジして、生薬取 扱業者とマッチング(令和2年1月)。
- 取り組みの効果・今後の予定 三豊市は県拠点の提案を受け、31年2月、令和2年2月 に「薬用作物シンポジウムinみとよ」を開催。 今後三豊市は、専門家や市内農業者等の協力を得ながら、 栽培技術の確立と産地としての実施体制等を検討し、<u>県</u> 拠点が、課題解決に必要なサポートをしつつ、引き続き バックアップ。





香川県拠点のアプローチ



なぜ実需者等とマッチング?

どうしてこんな動きをするのか?



理由1 作れば(マッチングできれば)確実に売れる 「ただし、将来の需要がついてくるかというリスクは 存在

理由2 現場(地域)で新しいことをすることや、その具体的な内容についての合意形成を図りやすい 変化を嫌う風潮や、会合に出てこずに文句を言う人がいたとしても理解が得られやすい

先に出口を見つけて、それをやってみたいという 積極的な者につなぐと、実現の確率が高くなるとと もにスピード感もでる

ただし、リスクも存在

地域が一体となって活動しない可能性 (新しい取組をする者が孤立する、) あるいはその逆が起こる可能性

地域が一体となって活動できるよう、地域に責任 を持って入り込む者が必要(地域内の者でも可)

取組み1:ものづくりセンター長

取組み2:地域おこし協力隊



この者を農林水産省(県拠点)や他府省がサポートする体制・支援が必要

今後の取組み方向

県拠点が現場に寄り添

いサポ

取組み1ひまわりオイルの販路拡大

・ひまわりオイルの生産 量拡大



- ・周辺農業者へ栽培拡大
- ・観光客の増加

取組み2 薬用作物の産地化

- ・周辺農業者へ栽培拡大
- ・市内で薬草を使った料 理が提供



- ・薬用作物の産地化
- ・市民に薬草が周知される

地域が活性化

ご清聴 ありがとうございました